

## 蒲生干潟の植物②5

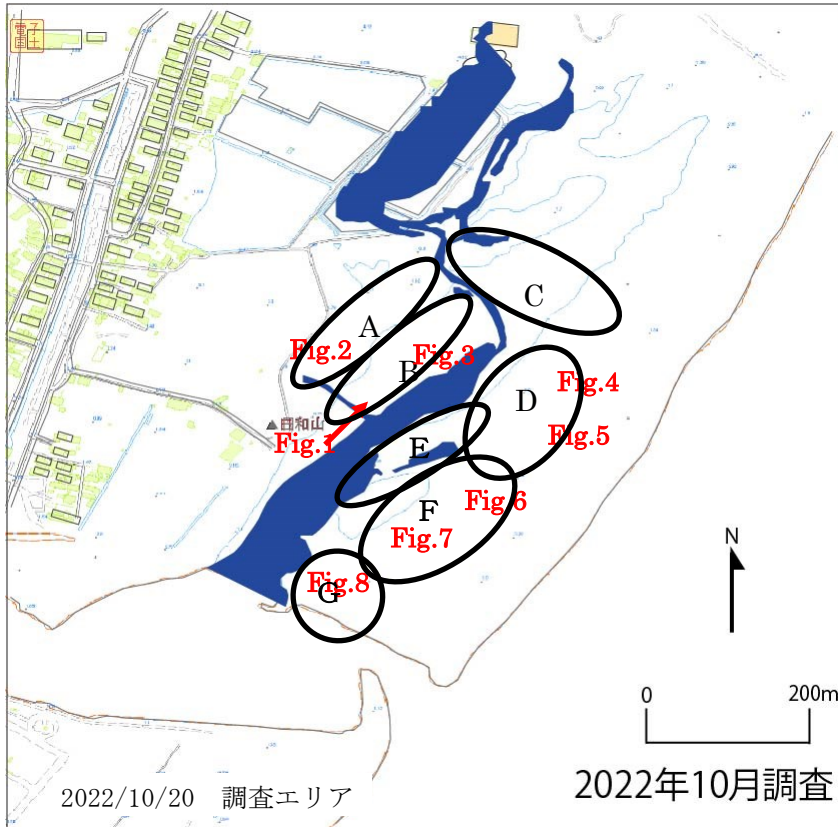


Fig.1 エリアBを南西側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影



Fig.3 エリアBで撮影



Fig.4 エリアDで撮影



Fig.5 エリアDで撮影

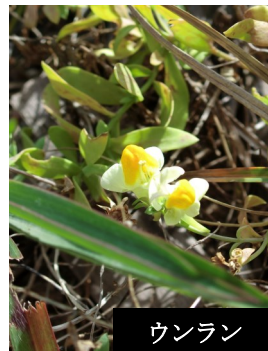


Fig.6 エリアFで撮影

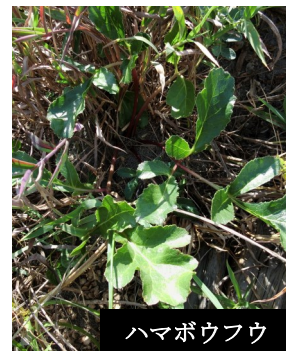


Fig.7 エリアFで撮影



Fig.8 エリアGで撮影

調査日時：2022年10月20日（木）9:30～11:00，天気：晴れ

干潮後の調査で、水がかなり引いた状態であった。定点観測では、緑色だったハママツナが全体的に茶色になっている（Fig.1）。エリアAのヨシは、穂が茶色で、茎も8割が茶色になっており、緑色の部分がすっかり少なくなっていた（Fig.2）。エリアBのハママツナは、細く立ち枯れた状態であった（Fig.3）。エリアDのハマニンニクの葉がしっかりしていたので根元をよく見てみると、穂が付いた茎はすっかり枯れていたが、周辺から葉がよく伸びていることが分かった（Fig.4）。また、エリアDでは、わずかではあるがハマニガナの花が確認できた。花が咲いている時期が他よりも長いことが確認できた（Fig.5）。エリアFでは、ウンランの花も確認できた。数はかなり減っていたので、花の時期の終わりが近いと思われる（Fig.6）。また、エリアFでは、種が落ち、葉も見られなくなったハマボウフウの葉が再び生えていた。ハマエンドウやハマヒルガオ同様、多年草のため、冬越しの準備と思われる（Fig.7）。エリアF、Gでは、コマツヨイグサが数多く見られた（Fig.8）。外来種のため、今後の広がりを注視したい。6月にエリアGで見られた十数株のオニグルミやイタチハギは、全て枯れていた。（No.312参照）

（宮崎佳彦）